

多様な人材が活躍できる ソーシャルタウン今金町

小林 洋伸 (こばやし ひろのぶ)
一般社団法人 i・スマイル 事務局長
(今金町商工会 事務局長)



農山漁村における地域の活性化や、個性的で魅力ある地域づくりの優れた活動を紹介するシリーズ。

今回は「わが村は美しくー北海道」運動第9回コンクールで優秀賞を受賞した団体、「一般社団法人 i・スマイル」事務局長の小林洋伸さんにお話をお伺いしました。

《今金町の人口減少に歯止めを》

今金町は北海道の渡島半島北部に位置し、ブランド芋「今金男しゃく」をはじめ農業が盛んな町です。

町では数年前から基幹産業である農業の後継者問題や若者の減少が著しく、町の衰退にもつながる人口減少問題を抱えていました。商工会では、それに歯止めをかけようと調査研究、実証実験などを行い解決方法を模索していました。そこで着目したのが今金高等養護学校の生徒を、地元の働き手として雇用できないかということでした。小林さんが中心となり、実現に向けて生徒や保護者へアンケート調査を実施し、就業への意欲を確認することができました。商工会、農家、町役場、養護学校が連携し、農作物の収穫や選定を行う就業実習を実施しました。その実習を活かし「障がい者雇用のためのマニュアル・ブック2016」を作成し、就業する障がい者と受け入れる雇用者側の不安を解消すべく、雇用先の拡大に尽力しました。



取材したこの日は、受け入れ先の伊藤農場で出荷前のミニトマトの選別作業をしていました。

《障がい者が活躍できるビジネスの創出》

2017年、障がい者を正社員として雇用するべく、商工会企業有志12名が出資して「一般社団法人 i・スマイル」を設立しました。設立当初は2名、翌年は1名を雇用し、現在は6名を正社員として雇用しています。業務は、ミニトマトや水稻苗の管理・収穫、町内観光案内、土産品・農作物の販売、宿泊施設等の清掃、建設業の補助などを企業から請け負っていますが、毎年、数名の卒業生を採用するための業務の確保は大変です。そこで、2020年に当初からの構想でもあった農産物加工場を建設し、町のブランド芋「今金男しゃく」をボイル加工して、業務用・イベント用・お土産品として販売しています。工場は、10月から翌年7月までの10カ月間稼働しているため、障がい者の通年雇用が可能になり、地元農産物にも付加価値を付けることができ、収益を上げることもつながります。障がい者の安定した雇用が確立されることで、人口減少の抑制と地域経済の再生にも貢献しています。

今後は、町の空き家を利用し社員の住宅として活用できないかと考えています。将来、保護者の方も一緒に住んで生活できれば、町の人口増にもつながります。

i・スマイルは今年で6年目になります。年々社員のスキルも向上して、指導員的な役割を担う人材も育っています。i・スマイルの努力が実を結び、今金町は、障がいがあっても安心して働き、暮らし続けられる「ソーシャルタウン今金町」となっています。

※ 当協会ホームページ、開発調査総合研究所・調査研究報告書から「わが村は美しくー北海道」運動第1～9回受賞団体の活動概要をまとめた冊子をご覧ください。